

下肢静脈瘤 Q&A

下肢静脈瘤の典型的症状

20年前の出産のあとからなんですけど、足の血管が膨らんでいるんです。朝はまだ良いんですけど、特に夕方になってくるとかなり目立ってきます。最近は足がむくみやすくなったり、夜に足がつっていたくて寝られないこともあります。どうしたらいいのでしょうか？

下肢静脈瘤とはどんな病気ですか？

この病気は、足の血管、その中でも静脈が膨らんで、こぶの様に見える病気です。原因は体質などにもよりますが、70歳以上の方には程度の差こそあれ、70%以上もあるとても多い病気です。静脈の血液が足にたまって、血管がその圧力に負けて膨らむことが原因ですが、人間が二足歩行を始めたときからこの病気は始まっており、紀元前数千年前のピラミットの時代からも静脈瘤がある足のレリーフなどが見つかっています。

そんな昔からある病気なのですね。それではなぜ、足に血液がたまってしまうのですか？

よく、血圧を計ることがあり、上の血圧が140mmHg以下が良いなどと言われていますが、これは動脈の血圧で、静脈の血圧は約10mmHg程度とされています。これはHg,すなわち水銀でなく、水の重さに換算すると15-20cmH₂Oです。静脈の圧力は水を20cm程度持ち上げる力しかないため、立っていると静脈の圧力だけでは血液は心臓に戻って行きません。足を動かすことによって筋肉に圧迫されたり、呼吸で吸い上げられたりして徐々に心臓に戻って行きます。静脈には弁があり、一度上に上がった血液は逆流しない様になっています。

それでは、なぜ血管が膨らんで行くのですか？

元々血管が膨らみやすい体質も静脈瘤の原因になりますが、立ち仕事の方や、妊娠によるお腹の静脈の圧迫によって足の静脈が膨らんで、静脈弁の働きが悪くなり、さらに逆流が増えて行くと言う悪循環が生じて徐々に血管がこぶの様に膨らんでいきます。

結果的に足に血液が常に貯まっている状態になりますので、足が重い、だるい、むくむ、また筋肉の血液の循環が悪くなって、足がつる、こむら返りがある、また皮膚の血液の循環が悪くなると色が黒っぽくなってきたり、皮膚に傷がついてなかなか治りづらい皮膚潰瘍を生じる場合があります。

どのような場合に治療が必要になるのでしょうか？

基本的に静脈瘤は悪性の病気ではないので放置して直接命に関わることはありません。しかし、先程お話ししたような足が重い、だるい、むくむ、足がつる、こむら返りがある、皮膚が変色してくるなどの症状が出るようでしたら治療した方がいいと考えています。

治療にあたっては、どのような検査が必要になってきますか？

一番大事なのは、超音波による検査です。足にゼリーを塗って、機械を当てますが、約30分かかります。痛みはない検査です。これによって、治療の必要性があるか、治療が可能かどうか、またどのような治療が向いているのかがはっきりとします。当院では、これに加えてCT検査を行って、足の表面の静脈がどのようになっているのか、分かりやすく見える様にしています。また、必要に応じて造影剤を使った検査を追加しています。

治療にはどのような方法がありますか？

ただ先程の症状を取るだけでしたら、足を圧迫する弾性ストッキングを履くのがもっとも手早い方法です。静脈の圧力より高い圧力のストッキングを履くことによって、足に静脈血が貯まるのを防ぎます。市販でも足を圧迫するタイプ

のストッキングが売られていますが、これは安全のために少し弱めに作られています。正式な物は病院で数千円程度で販売しています。しかし、先程の様に一度膨らんでしまった静脈は元に戻らないため、症状を取るのには適していませんが、静脈瘤自体は改善しません。逆に、弾性ストッキングを履いてみて症状が改善するようであれば、手術をすると症状が取れる可能性が高くなります。

でも、ずっとストッキングを履き続けるのはなかなか大変ですね。

そうですね。静脈瘤にもいろいろなタイプがありますが、膨らんだ静脈に血液を流れなくする様にするのが、基本的な治療法になります。足の中心には、深部静脈という、太い静脈がありますが、この血管が足の静脈血流の8-9割を担っています。静脈は動脈に比べて血管がたくさんある分、流れが分散されていて圧力が低くなっていますので、体の表面にあって、逆流しているような血管は取ってしまっても問題ありません。

具体的にはどのような方法があるのですか？

血管を直接取ってしまう瘤切除術や血管を引き抜くストリッピング手術、薬を血管内に注入して血液を流れなくする硬化療法、また最近では血管内にレーザーを照射して血管を収縮させ、血液を流れなくするレーザー治療法も開発されています。いずれも健康保険が適用されています。その方の静脈瘤のタイプによってある程度治療法は決まってきますが、生活スタイルやご希望などにより、治療方法を選ぶことも可能です。

最近では、よくテレビでもレーザー治療の話題が出ていますね。

そうですね。レーザー治療の静脈瘤への応用が始まり、日本でも3年前から健康保険の適用になりました。膨らんだ血管の中にレーザーのカテーテルを入れて行き、血管の内側から静脈の逆流を治療する方法です。膨らんでコブのようになった部分には使えないので、膨らんだ血管は数ミリの小さな切開で取り除くようにする、瘤切除術を組み合わせるのが一般的です。いずれにせよ、全ての方にレーザー焼灼術が向いている訳ではないので、専門医とも御相談下さい。

治療はどのような流れになっていますか？

外来は予約制になっていますので、まずは予約の上、来院していただき、一般的な診察を行います。その後、検査を予約して来院していただき、その次の外来で、治療の必要性や治療方針を話し合います。片足で比較的軽症の場合には、日帰りで治療を行いますが、ある程度重症であったり、治療中の病気があったり、両足を一度に治療する場合には、二泊三日の入院で治療を行います。いずれの場合にも、治療時には麻酔科医に付いてもらい、楽に治療が行える様に心がけています。退院後は、一週間後、一ヶ月後に外来に来ていただいています。治療後は特に禁止事項はありませんが、最初の一週間はシャワー浴のみで、シャワー時以外は弾性ストッキングを履いていただいています。またこの期間は激しい運動は控えて下さい。

下肢静脈瘤は基本的に良性の疾患で、長い時間をかけて悪化していくことから放置しがちです。最近は日帰り治療なども積極的に行われており、治療も簡便化されて来ています。

これを機会に是非一度専門病院を受診されることをおすすめいたします。